

保育者養成校における学生の自己評価と 他者評価間の比較研究Ⅱ

A study of comparison between students self evaluation and evaluation
with others in nursery school Part 2.

池田 隼 (函館大谷短期大学) Hayato IKEDA
藤村 敦 (函館大谷短期大学) Tsutomu FUJIMURA

要 約

本研究では、令和3年度および令和4年度の学生の自己評価と実習園の他者評価を比較し、学生と実習園の評価の関係について検討した。その結果、令和4年度の学生の自己評価は実習園の他者評価よりも、全ての評価項目において有意に低い値を示した ($p < 0.01$)。令和3年度の総合自己評価および令和4年度の総合自己評価の平均値の差の比較において、令和4年度の総合自己評価は、令和3年度の総合自己評価よりも有意に高い値を示した ($p < 0.01$)。令和3年度の総合他者評価および令和4年度の総合他者評価の平均値の差の比較において、令和3年度の総合他者評価と令和4年度の総合他者評価には有意な差は認められなかった。以上の結果から、実習園からの他者評価は大きく変わっていないものの実習生の自己評価は、その年の学生によって異なることが示唆された。

キーワード：保育所実習 「自己評価」 「他者評価」

1. 背景および目的

近年、保育業界では各園における保育者数の不足が問題となっており、保育者養成校を卒業した学生の新卒採用率も高いものとなっている。¹⁾ また、新卒採用後に担任を任せる園もあり、卒業後の学生が即戦力として必要とされている。しかし、保育者養成校を卒業後、現場で複数の仕事を完璧にこなすことのできる力はなく、多くの学生は就職先の職場で受ける指導や研修、他の教職員とのコミュニケーションの中で保育者としての力を育んでいる。学生の就職率の観点において、保育者不足という状況は決して悪いことではないが、保育者養成校としては学生が保育現場で力を発揮できるようにするためにも、2年間もしくは4年間の中で可能な限り指導することが重要である。そんな中、保育実習は実習Ⅰと実習Ⅱに分かれており、実習の前後で振り返りを行うことでより良い学びへとつなげられるようにカリキュラムが組まれている。²⁾

保育者を目指す学生にとって実際の保育現場で行う保育実習は、保育者養成校で講義や実技を通して学ぶ知識及び実践力を試すことのできる貴重な機会である。³⁾ 学生自身も指導案の作成や手遊びなどを事前に確認し、保育実習に向けて可能な限りの準備を行っている。保育者養成校の教員においても、学生自身が保育実習に意欲を持って取り組めるようにサポートし、必要に応じて指導している。このように保育実習は、保育者を目指す学生にとって重要な経験となる。

す学生にとって学びの多い時間であり、大きく力を伸ばしていくことのできる機会となり得るものである。先行研究において、保育実習における実習園の評価と学生の評価を比較した研究では、学生の自己評価は実習園の他者評価よりも、全ての評価項目において有意に低い値を示したと報告しており⁴⁾、学生は自分自身で行なっている実習での活動に自信を持っていない可能性が考えられる。保育者養成校として、少しでも学生の不安を取り除き、自信を持って実習を行なってもらう、その先には自信を持って就職してもらうためにも、学生の課題を抽出し、その改善策を検討することが重要である。

本学では、実習前後において授業を通して準備や振り返りを行っており、この際に使用する自己評価および実習園の他者評価を様々な観点で学生のためにフィードバックできないかを検討している。学生自身で振り返ることはとても重要であるが、学生の特徴をこれまでの学生とも合わせて見ていくことで、本学としての実習前後や実習中の中間訪問等の関わり方を改善していくことができると思われる。

したがって、本研究では、令和3年度の保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した学生と令和4年度の保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した学生を対象に、学生の自己評価と実習園の他者評価を比較することで、学生と実習園の評価の関係や学生の特徴について明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2.1 対象

対象者は令和3年度H大学こども学科2年生のうち、保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した39名および令和4年度H大学こども学科2年生のうち、保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した39名の計78名とした。なお、対象者には事前に本研究の目的や方法、ならびに対象者の意思によって研究への参加を辞退する場合に何一つ不利益を被ることなくいつでも同意を撤回することができるについて、口頭および書面で十分に説明し、研究結果を報告することに対して承諾を得た。

2.2 調査用紙

本研究で使用した評価票を図1に示した。本研究では、保育実習指導ガイドラインに添付されている評価票を使用した。⁵⁾ 評価内容は、態度として「意欲・積極性」、「責任感」、「探究心」、「協調性」の4つ、知識・技能として「保育所の役割と機能」、「観察に基づく保育理解」、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」、「保育士等の職業倫理」、「自己課題の明確化」の6項目、そして総合評価の計11項目であった。実習生の自己評価および実習園の他者評価は、7～10月の間に実施された。また、本調査は保育実習指導IIの科目内で実施され、各評価項目について担当教員より口頭での説明を受けた上で回答された。

2.3 統計処理

本研究における評価票の数値は、評価票内のA、B、C、Dの4段階の評価をA = 4点、B = 3点、C = 2点、D = 1点とし、点数化して算出した。また、全ての数値は、平均±標準偏差として示した。学生の各評価項目と実習園の各評価項目の2群間の比較には、正規性の検定後に対応のないt検定を用いた。本研究で使用した統計解析ソフトは、JSTAT for Windowsを用いた。なお、統計学的な有意水準は5%未満とした。

3. 結果

3.1 自己評価

学生の自己評価の結果を表1に示した。「意欲・積極性」は2.36±0.84点、「責任感」は2.36±0.78点、「探

究心」は 2.23 ± 0.54 点、「協調性」は 2.38 ± 0.63 点、「保育所の役割と機能」は 2.03 ± 0.78 点、「観察に基づく保育理解」は 2.21 ± 0.61 点、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」は 1.77 ± 0.63 点、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」は 2.18 ± 0.56 点、「保育士等の職業倫理」は 2.08 ± 0.77 点、「自己課題の明確化」は 2.31 ± 0.66 点、「総合評価」は 2.21 ± 0.57 点であった。

3.2 他者評価

実習園の評価の結果を表1に示した。「意欲・積極性」は 2.92 ± 0.86 点、「責任感」は 3.05 ± 0.81 点、「探究心」は 3.00 ± 0.78 点、「協調性」は 2.92 ± 0.72 点、「保育所の役割と機能」は 2.43 ± 0.55 点、「観察に基づく保育理解」は 3.03 ± 0.50 点、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」は 2.53 ± 0.56 点、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」は 2.75 ± 0.77 点、「保育士等の職業倫理」は 2.43 ± 0.73 点、「自己課題の明確化」は 2.89 ± 0.74 点、「総合評価」は 2.70 ± 0.70 点であった。

3.3 自己評価および他者評価の平均値の比較

自己評価と他者評価を比較した結果を表1に示した。「意欲・積極性」、「責任感」、「探究心」、「協調性」、「保育所の役割と機能」、「観察に基づく保育理解」、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」、「保育士等の職業倫理」、「自己課題の明確化」、「総合評価」の全ての項目において、実習生の自己評価は、実習園の他者評価よりも有意に低い値を示した($p < 0.01$)。

3.4 令和3年度の総合自己評価および令和4年度の総合自己評価の平均値の差の比較

令和3年度の総合自己評価および令和4年度の総合自己評価の平均値の差を図2に示した。令和3年度の総合自己評価および令和4年度の総合自己評価の平均値の差の比較において、令和4年度の総合自己評価は、令和3年度の総合自己評価よりも有意に高い値を示した($p < 0.01$)。

3.5 令和3年度の総合他者評価および令和4年度の総合他者評価の平均値の差の比較

令和3年度の総合他者評価および令和4年度の総合他者評価の平均値の差を図2に示した。令和3年度の総合他者評価および令和4年度の総合他者評価の平均値の差の比較において、令和3年度の総合他者評価と令和4年度の総合他者評価には有意な差は認められなかった。

4. 考察

本研究では、令和3年度の保育実習I(保育所)および保育実習IIを実施した学生および令和4年度の保育実習I(保育所)および保育実習IIを実施した学生を対象に、学生の自己評価と実習園の評価を比較することで、学生と実習園の評価の関係や学生の特徴について明らかにすることを目的とした。

本研究結果において、学生の全ての評価項目の値は、実習園の評価項目の値よりも有意に低い値を示した($p < 0.01$)。評価項目を細かく見ると、学生の評価が最も低かった項目は「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」であり、実習園の評価が最も低かった項目は「保育所の役割と機能」「保育士等の職業倫理」であった。この結果は、学生自身が実習中の活動内容において自己への認識を過小評価していることが伺える。複数の先行研究において、自己評価が他者評価よりも低くなったことを報告しており^{4) 6-7)}、本研究結果も同様の傾向を示している。実習を終えたばかりの学生にとって、自己評価を低く付けてしまうことは致し方ないことかもしれないが、他者評価とも見比べた上で改めて反省していくことが重要である。さらに、知識・技能の項目において、学生の認識と実習園側の認識の乖離は1つの問題になるかもしれない。この結果が示すものは、実習園は実習期間を通して学生へ様々な体験や経験をさせているという認識があるにもかかわらず、学生自身は十分に理解できていない可能性がある。学生の理解度をしっかりと把握することや実習園との連携等、保

育者養成校がこの現状を理解し、学生に対しても実習園に対しても実習内容について改善するための方法を検討することが重要であると考える。実際の保育実習において、実習園に対して実習評価に関する内容は資料を用いて説明を行なっているが、対面式での説明を十分に行なっている訳ではない。特に、新型コロナウイルスの影響により、より一層難しくなっている。他にも、実習園の実習指導担当者が毎年同じとは限らず、初めて実習指導にあたる担当者も存在するはずであり、実習評価の正誤性や妥当性については統一することが困難である。

R3年度の総合自己評価およびR4年度の総合自己評価の平均値の差の比較において、R4年度の総合自己評価は、R3年度の総合自己評価よりも有意に高い値を示し、令和3年度の総合他者評価および令和4年度の総合他者評価の平均値の差の比較において、令和3年度の総合他者評価と令和4年度の総合他者評価には有意な差は認められなかった。この結果から、実習園の学生に対する評価は変わっていないが、学生の自分自身への解釈が変化している可能性が考えられる。保育者養成校の学生は、各年代によって学生個人はもちろんのことクラスや学年の特徴が変化する可能性もあり、2年間という短い期間で学生の特徴を把握した上で指導を実施していくことも必要になるかもしれない。

保育者養成校において、講義形式の授業で全てを把握することは困難であるが、専門科目や実技形式の授業内、並びに本学が独自に行なっている1年時の幼稚園実習や課外活動も含め、保育者を目指す学生の様子を観察し、学生の特徴についてより一層教員間で共有しておくことが必要であると考える。そうすることで、保育所実習や幼稚園実習、施設実習を通して保育者を目指す学生の特徴を伸ばし、2年間という短い期間でも学生の課題を改善していくことができるかもしれない。本研究は、今年度の保育実習IおよびIIを終えた学生を対象に行なっているが、保育者養成校として入学から卒業までの学生の成長過程を継続的に観察していくためには、幼稚園実習も含めた実習評価の振り返りが必要であると考えている。一方で、2年間という短い期間ですぐに保育現場で活躍できる人材を輩出し続けることは難しい状況である。普段の授業や実習だけでは、保育者として必要な現場での実践力を全て獲得させることは厳しいが、その中でも学生の個性を伸ばしつつ、少しでも保育者としての成長を促すことが必要不可欠である。保育者養成校において、学生の成長を見守るだけではなく、教員側が学生へアプローチすることで学生に気づかせ、行動に移させるための関わり方が求められているように感じている。

5. まとめ

本研究では、令和3年度の保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した学生および令和4年度の保育実習I（保育所）および保育実習IIを実施した学生を対象に、学生の自己評価と実習園の他者評価を比較することで、学生と実習園の評価の関係や学生の特徴について検討した。その結果、学生の自己評価は実習園の他者評価よりも、全ての評価項目において有意に低い値を示した。また、自己評価と他者評価の平均値の差の比較において、最も差が大きかったのは「探究心」や「観察に基づく保育理解」、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」であった。これらの結果は、R3年度の実習生と類似する傾向もあり、本学学生の特徴である可能性が考えられる。今後は学生の認識と実習園の認識の差を埋めていくような関わりを検討していく必要がある。

6. 引用文献

1. 「保育士の現状と主な取り組み」（2020年8月24日、厚生労働省）「保育の現場・職業の魅力向上検討会（第5回）」

2. 「保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2 『協働』する保育士養成」(2018年7月1日, 一般社団法人全国保育士養成協議会)
3. 本村弥寿子. 「保育実習生に求められる力について保育実習評価票から探る-」(2021年3月) 長崎女子短期大学紀要, 第46号.
4. 池田隼. 「保育者養成校における学生の自己評価と他者評価間の比較研究」(2022年3月) 函館大谷短期大学紀要, 第36号 p9-16.
5. 保育実習指導ガイドライン 実習施設用 第1版 (2018年4月, 全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会)
6. 前徳明子. 「保育所実習の評価に関する研究-保育所からの評価『他者評価』と実習生の評価『自己評価』との相違についての考察-」(2009年) 小池学園研究紀要 創刊号, p83-96.
7. 牛込彰彦. 「保育所実習における学生の自己評価と実習評価の関係」(2013年) 埼玉純真短期大学研究論文集 第6号 p25-39.

保育実習Ⅱ評価票

実習施設名		施設長名		実習指導担当保育士等名											
				㊞				㊞							
実習生	学年 クラス	学籍番号		氏名											
実習期間	年 月 日() ~ 年 月 日()														
勤務状況	出勤日	日	欠勤日数	日	遅刻数	回	早退数	回							
項目	評価の内容	評価上の観点						評価 (該当するもの□にチェック)							
		A	B	C	D										
		意欲・積極性	<ul style="list-style-type: none"> ・指導担当者からの指示を持つばかりでなく、自分から行動している。 ・積極的に子どもとかかわろうとしている。など 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		責任感	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な時間的余裕を持ち、勤務開始できるようにしている。 ・報告・連絡・相談を必要に応じて適切に行っている。 ・日誌や指導案などは期限までに提出できる。など 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		探求心	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の取り組みの中で、適切な援助の方法を理解しようとしている。 ・日々の取り組みの中で、自己課題を持って実習に臨んでいる。など 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
協調性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な判断に陥らないよう努めている。 ・判断に迷うときには、指導担当者に助言を求める。など 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
態度	保育所等の役割や機能の具体的展開	<ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる実際の保育について理解できている。 ・保育所等の社会的役割と責任について具体的実践を通じて理解ができる。 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
		知識・技術	観察に基づく保育理解	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の子どもとのかかわりを通して、子どもの心身の状態や活動に対する観察ができる。 ・保育士等の動きや実践に対する観察ができる。 ・実際の保育所の生活の流れや展開について理解できている。 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
				知識・技術	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解できている。 ・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実態について理解できている。 ・地域社会との連携の実態について理解できている。 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
						知識・技術	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画と指導計画の作成・実践・省察・評価・記録と、実際の保育の過程の展開について理解できている。 ・作成した指導計画に基づく保育実践の評価ができる。 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		知識・技術	保育士等の業務と職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育の展開と保育士等の業務内容の関連性について理解できている。 ・保育士等の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。 						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
総合所見	自己課題の明確化 (できていたこと、今後課題になること)									総合評価 (該当するものに○)	実習生として A:非常に優れている B:優れている C:適切である D:努力を要する				
								※大学側評価欄	実習指導者氏名						

記入要領

1. 評価基準は以下の通りです。

A:実習生として非常に優れている B:実習生として優れている C:実習生として適切である D:実習生として努力を要する

2. 総合所見では、実習を通して学生ができていた点、今後の課題となる点などを記入してください。

図 1. 本学の保育所実習Ⅱにおける評価票

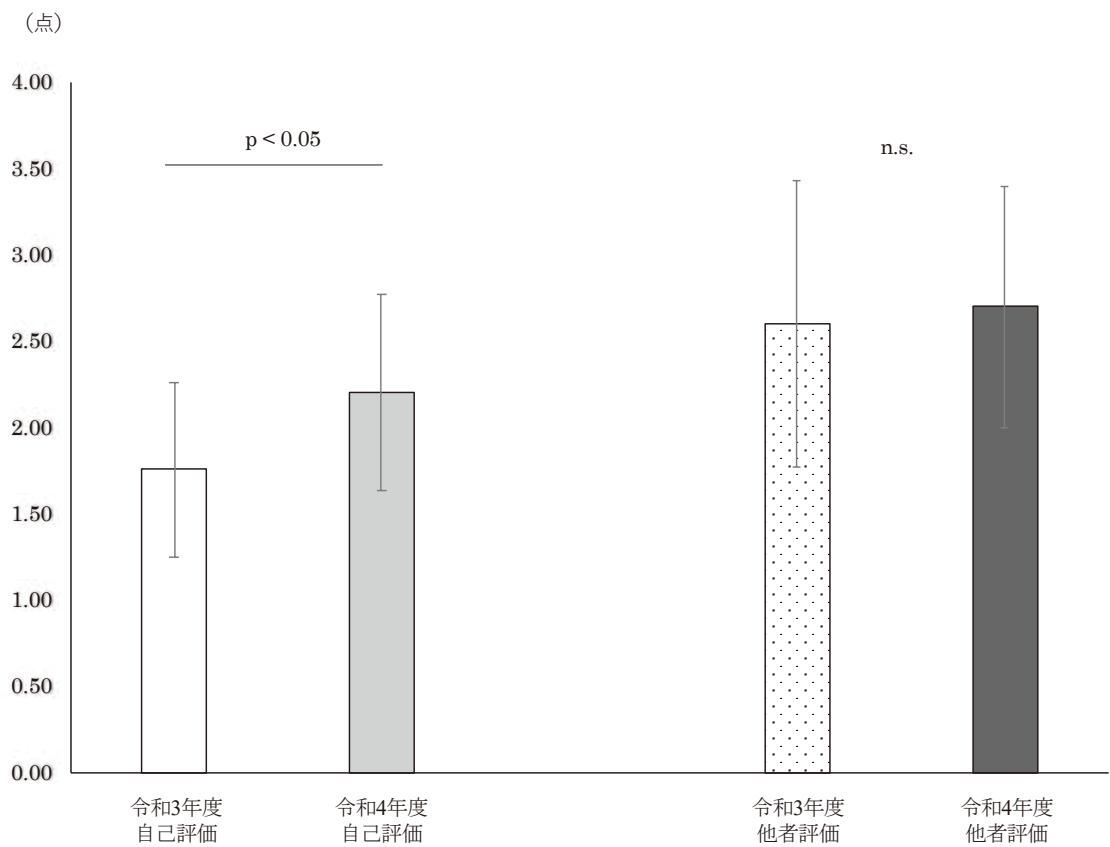


図 2. 令和 3 年度と令和 4 年度の総合自己評価及び総合他者評価の平均値の差の比較

表1. 実習生および実習園の評価

項目	評価内容	実習園評価 (点)	実習生自己評価 (点)	p
態度	意欲・積極性	2.36 ± 0.84	2.92 ± 0.86	0.0055
	責任感	2.36 ± 0.78	3.05 ± 0.81	0.0003
	探究心	2.23 ± 0.54	3.00 ± 0.78	< 0.0001
	協調性	2.38 ± 0.63	2.92 ± 0.72	0.0010
知識・技能	保育所の役割と機能	2.03 ± 0.78	2.43 ± 0.55	0.0104
	観察に基づく保育理解	2.21 ± 0.61	3.03 ± 0.50	< 0.0001
	子どもとの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携	1.77 ± 0.63	2.53 ± 0.56	< 0.0001
	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	2.18 ± 0.56	2.75 ± 0.77	0.0004
	保育士等の職業倫理	2.08 ± 0.77	2.43 ± 0.73	0.0429
	自己課題の明確化	2.31 ± 0.66	2.89 ± 0.74	0.0005
	総合評価	2.21 ± 0.57	2.70 ± 0.70	0.0011
平均 ± 標準偏差				